

CONTENTS

ほくほくフィナンシャルグループの歩み	p03	GX戦略(環境分野への取組み)	p35
私たちの強み	p05	GX戦略(TCFDに基づく開示)	p41
地域のポテンシャル	p07	DXの推進	p47
財務ハイライト・非財務ハイライト	p09	人的資本経営の取組み	p53
社長メッセージ	p11	「社外取締役」と「職員」の意見交換会	p63
副社長メッセージ	p15	グループ総合力の強化	p67
ほくほくフィナンシャルグループの 価値創造プロセス	p19	ステークホルダーコミュニケーション	p71
サステナビリティ経営のための 取組み重点テーマ	p21	グループガバナンスの強化	p73
財務担当役員メッセージ (企業価値向上に向けた取組みについて)	p23	お客さま本位の 業務運営に向けた取組み	p85
中期経営計画 「Go forward with Our Region」・ KPI進捗状況	p27	会社概要	p87
総合的なコンサル対応力の向上	p29	10年間の主要財務データ	p93
		店舗ネットワーク	p95

富山県：黒部ダム

経営理念

「ほくほくフィナンシャルグループ」は、広域地域金融グループとしてのネットワークと総合的な金融サービス機能を活用して、地域とお客さまの繁栄に貢献し、ともに発展しつづけます。

地域共栄 社会的使命を実践し、地域社会とお客さまとともに発展します。

公正堅実 公正かつ堅実な経営による健全な企業活動を目指し、信頼に応えます。

進取創造 創造と革新を追求し、活力ある職場から魅力あるサービスを提供します。

長期ビジョン

課題解決を通じて地域・お客さまとともに持続的成長を実現する

地域・お客さま

魅力ある地域へ

- ☑ 地域経済・産業の発展
- ☑ 快適で豊かな暮らし
- ☑ サステナブルな社会



株式会社ほくほくフィナンシャルグループ
Hokuhoku Financial Group, Inc.

魅力ある企業へ

- ☑ 選ばれ・愛される存在に
- ☑ 魅力的で多様な人材が活躍
- ☑ 株主価値・企業価値の向上

北海道：新釧路川

編集方針

ほくほくフィナンシャルグループはこの度、統合報告書2023を発刊いたしました。編集にあたっては、国際統合報告評議会(IIRC)が提唱する「国際統合報告フレームワーク」および経済産業省による「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス」などを参照しています。本統合報告書は、銀行法第21条および第52条の29に基づいて作成したディスクロージャー誌です。本統合報告書に将来の業績に関する記述が含まれておりますが、これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化等により、実際の数値と異なる可能性があります。なお、詳細な財務データ等につきましては、「統合報告書2023財務データ編」をご覧ください。



ロゴマーク

垂直に伸びるゴールドのグラデーションは企業の成長性と収益性を表し、緩やかな弧を描くラインは広域地銀としてのネットワークを表現しています。また、落ち着いたブルーの正方形は、組織の揺るぎない安定性をイメージしており、その正方形の中に垂直のラインとカーブのラインを配置することによって、「ほくほく」の頭文字である「h」を表しています。



北陸銀行の創業

北陸銀行は、加賀前田家の出資を受け、加賀藩祖「前田利家」ゆかりの銀行として創業されました。

- 1877年8月 金沢第十二国立銀行開業(創業)
- 1879年2月 富山第二十三国立銀行開業
- 1943年7月 十二・高岡・中越・富山の前身4行合併により「株式会社北陸銀行」設立
- 1950年1月 外国為替業務開始(地銀初)
- 1961年9月 東京証券取引所に上場

北海道銀行の設立

北海道銀行は、戦後復興期、新興産業の勃興と人口の急増に伴う旺盛な資金需要に応えるべく、道内中小企業者の強い要望により設立されました。

- 1951年3月 「株式会社北海道銀行」設立
- 1961年4月 外国為替業務開始
- 1962年5月 札幌証券取引所に上場
- 1987年9月 東京証券取引所一部に上場

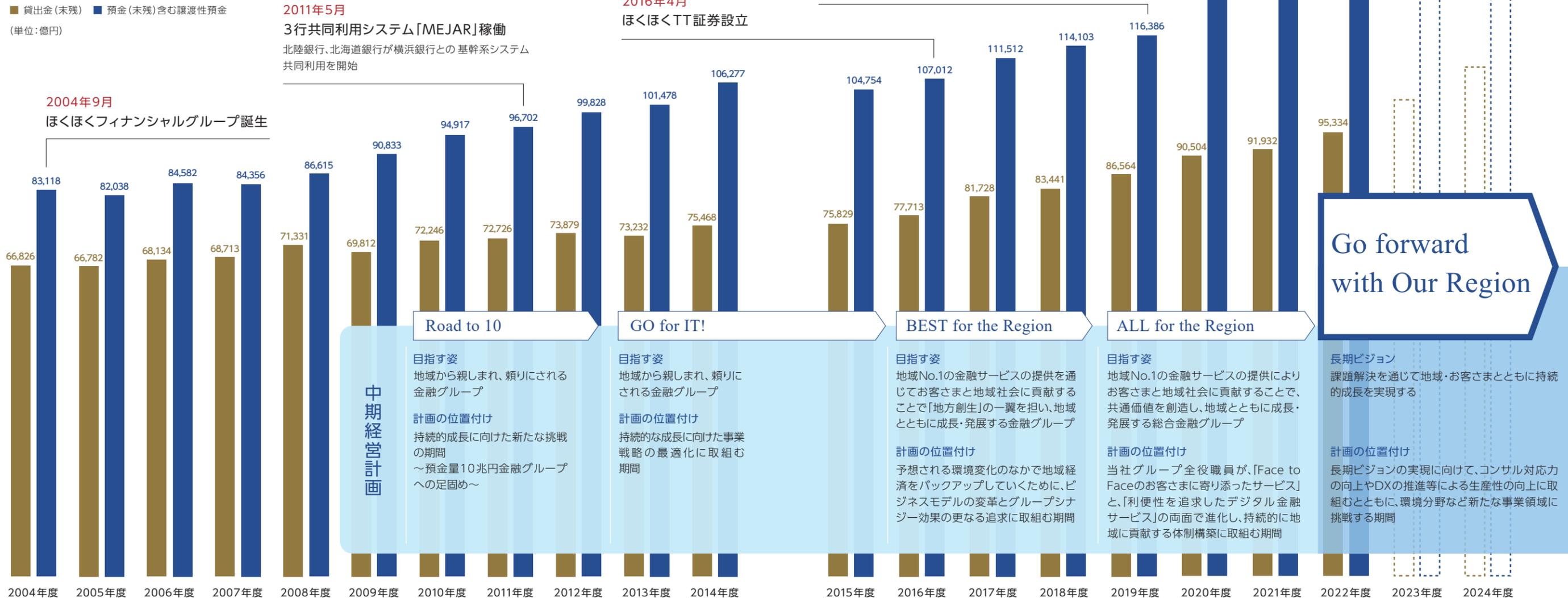
地域金融として初の広域地域金融グループとなるほくほくフィナンシャルグループを設立
依然金融機関にとって厳しい環境が続く中、2004年9月に経営資源をより有効に活用する経営の効率化、広域ネットワークを活用した営業力の強化および経営基盤の安定化を目指し、北陸銀行・北海道銀行が経営統合し、2行を中心としたほくほくフィナンシャルグループが誕生いたしました。



ほくほくフィナンシャルグループの歩み

ほくほくフィナンシャルグループは、北陸・北海道に基盤を置く地域金融機関として、長らく地域とお客さまの繁栄に貢献してきました。
今後とも地域とともに成長・発展することで、共有価値を創造してまいります。

- 2020年6月 環境省が実施する「令和2年度ESG地域金融促進事業」の支援先機関として採択
- 2021年2月 「ほくほくフィナンシャルグループ環境方針」の制定 「TCFD」提言への賛同
- 2021年3月 北海道銀行 設立70周年
- 2019年4月 「ほくほくフィナンシャルグループSDGs宣言」を表明し、「CSR活動における取組み重点テーマ」を制定
- 2021年7月 「特定事業等にかかる投融資ポリシー」の制定 「CO₂排出削減目標」の引き上げ
- 2021年11月 「サステナビリティ推進委員会」の新設 「サステナブル関連投融資目標」の設定
- 2023年4月 「SX推進部」の新設
- 2023年6月 「人事戦略部」「DX推進部」の新設



私たちの強み

当社グループが培ってきた強みを活かし、地域社会へ貢献するとともに、

当社グループの持続的な成長を実現してまいります。



財務資本

地銀No.5の資産規模

北陸三県と北海道で長年お客さまと共に歩み、成長してきたことで、預金・貸出とも大きくシェアを確保しています。

当社は地銀5位の資産規模を有する金融グループであり、シェアのみならず資産規模が大きいことで、お客さまに安心できるお取引と多様な金融サービスを提供できることも、当社グループの強みとなります。



知的資本

地銀トップクラスのノウハウ

質の高いコンサルティングを提供するための研修メニューの整備に加え、M&Aや事業承継といった分野を中心とした地銀トップクラスのノウハウおよび幅広いソリューション提供を可能とする証券、カード、リース、ソフトウェア、シンクタンクなどのグループ会社網を有しております。これらを最大限活用することにより地域経済の活性化と当社の成長の両立を目指しています。



社会・関係資本

高い地域シェアと地域ネットワーク

1877年創業の北陸銀行と1951年設立の北海道銀行、歴史に裏打ちされたお客さまとの取引基盤を確立しており、プライムエリアである北陸・北海道で高いシェアを誇っています。

また、地方自治体等とも連携を図ることで、強固な関係を築いております。



製造資本

海外を含む広域店舗網とデジタル機能を活用した金融インフラ

海外も含め国内外に広域なネットワークを有している地銀では類を見ない広域金融グループです。

この広域ネットワークを活用して、お取引先へ情報提供や販路拡大の支援を実施することが可能となっています。

また、タブレットやTV会議システムなどを導入することで、場所を問わず業務ができる体制を整備しております。



人的資本

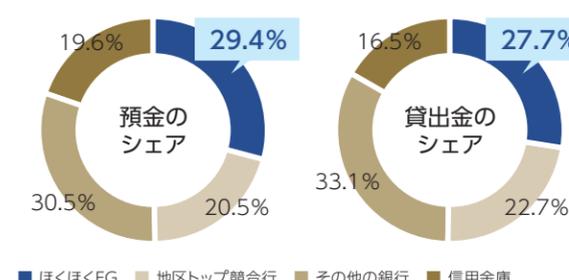
強固で多様な人材

経営理念および長期ビジョンに基づく、人的資本取組方針「地域・取引先をつなぎ価値創造の原動力となる ひとつづくり」の旗印のもと、広域に展開する我々の強みを活かしながら、ダイナミックかつきめ細やかに地域や取引先の価値創造への貢献を第一に活動しています。多様な人材が集い、一人ひとりが働き甲斐を感じ、自分自身の価値向上にも自律的に取り組んでいくことのできる環境を整備することで、地域やお取引先の持続的成長に伴走できる人材の育成に努めていきます。



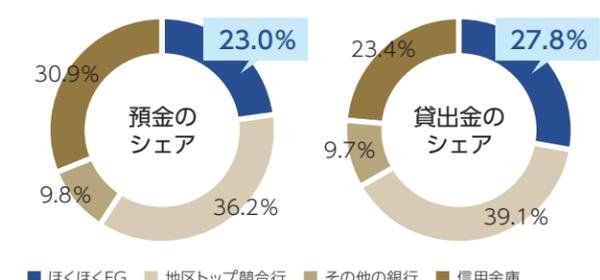
北陸3県(富山・石川・福井)

預金・貸出金ともに第1位のシェア



北海道

預金・貸出金ともに第2位のシェア



地域のポテンシャル

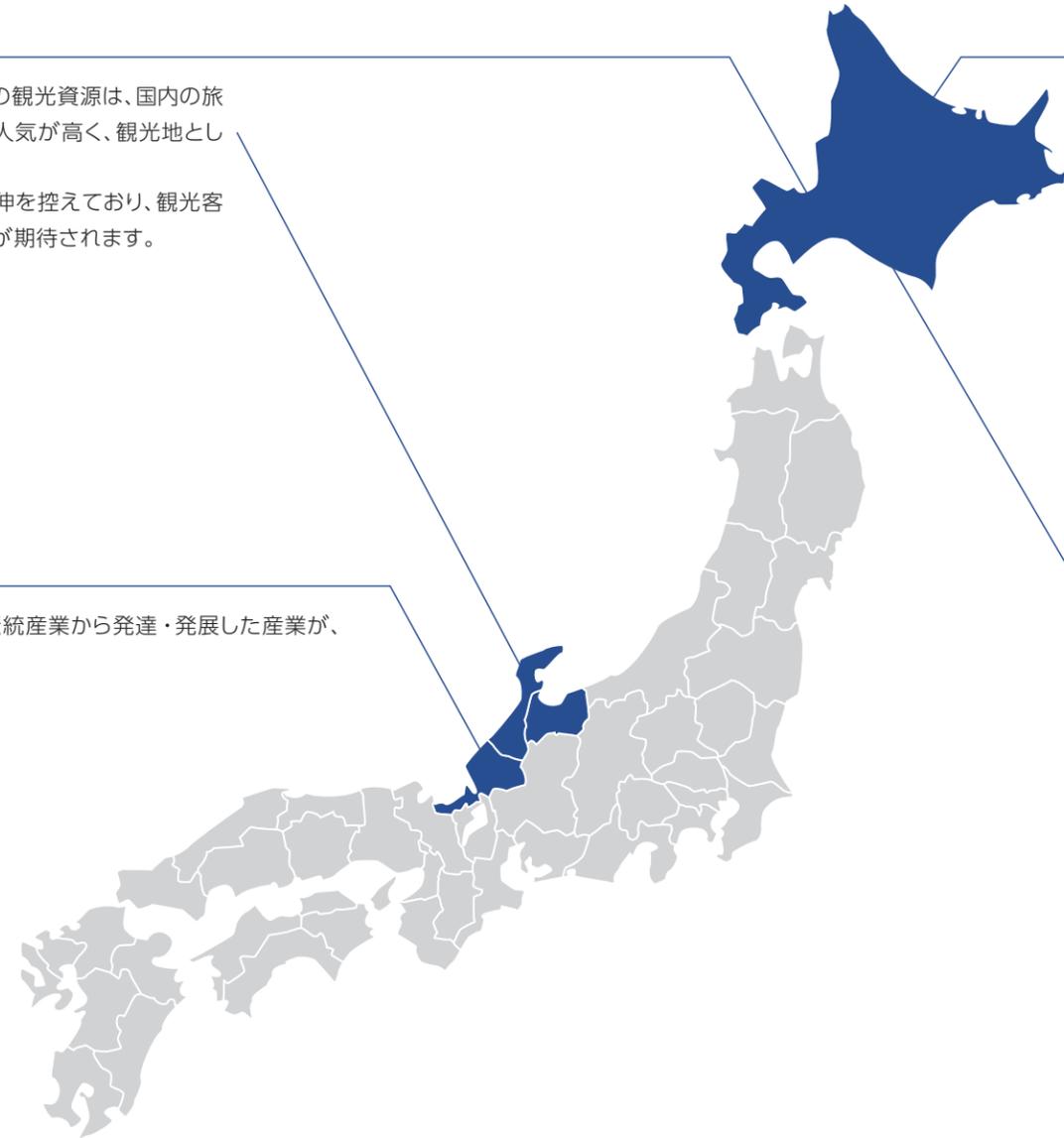
当社グループは、北陸3県と北海道を中心に広域展開して

おります。それぞれの地域がもつポテンシャルを活かし、地域とともに発展してまいります。



豊富な観光資源

北陸・北海道の雄大な自然、温泉などの観光資源は、国内の旅行者のみならず、外国人旅行者からも人気が高く、観光地として優れた条件を備えています。北陸においては、北陸新幹線の敦賀延伸を控えており、観光客の増加など、首都圏との往來の活性化が期待されます。



食の北海道ブランド

北海道特有の気象条件や地理的条件を背景に、多様な食材が生産されています。



農業生産額(億円)		
①	北海道	13,108
②	鹿児島	4,997
③	茨城	4,263
④	宮崎	3,478
⑤	熊本	3,477

出典:農林水産省「令和3年 生産農業所得統計」

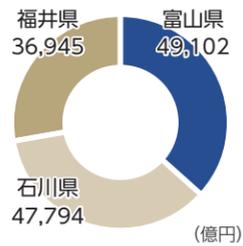
海面漁業・養殖業産出額(億円)		
①	北海道	2,568
②	長崎	936
③	愛媛	849
④	鹿児島	658
⑤	宮城	655

出典:農林水産省「漁業産出額」

日本海側随一の工業圏

3県それぞれの特徴を生かしながらほぼ同等に存在感を放つ北陸。地場の伝統産業から発達・発展した産業が、シェアトップ企業を数多く生み出す基盤になっています。

北陸3県県内総生産
(名目、2019年度)
合計13兆3,841億円



出典:総務省「県民経済計算」

製造品出荷金額の全国シェア1位の品目

(単位:%)

品目	全国シェア
住宅用アルミニウムサッシ	富山県 1位
事務所用・店舗用装備品	石川県 1位
眼鏡枠	福井県 1位
ポリエステル長繊維織物	福井県 1位

出典:総務省「令和3年 経済センサス」

豊富な再生可能エネルギーポテンシャル

北海道は太陽光や風力、バイオマス、地熱、石炭といった多様なエネルギー源が豊富に賦存し、とりわけ新エネルギーの活用に向けては全国随一の可能性があります。

2023年5月には、北海道内で5つの海域が再生可能エネルギー海域利用法に基づく「有望な区域」と指定され、洋上風力発電所開発に向けた具体的な検討が進んでいます。

このポテンシャル活用に向け、半導体産業やデータセンターの誘致が進んでおり、先端産業の集積地となることが期待されています。



地域のポテンシャルをさらに強化するための当社グループの取組み

Team Sapporo-Hokkaidoへの参画

2023年6月に産学官金からなるコンソーシアム「Team Sapporo-Hokkaido」が設立され発足メンバーとして、ほくほくフィナンシャルグループも参画しています。当コンソーシアムでは、北海道が有する国内随一の再生可能エネルギーのポテンシャルを最大限に活用し、北海道および札幌市のGX(グリーントランスフォーメーション)の推進に資する取組みを進めていきます。

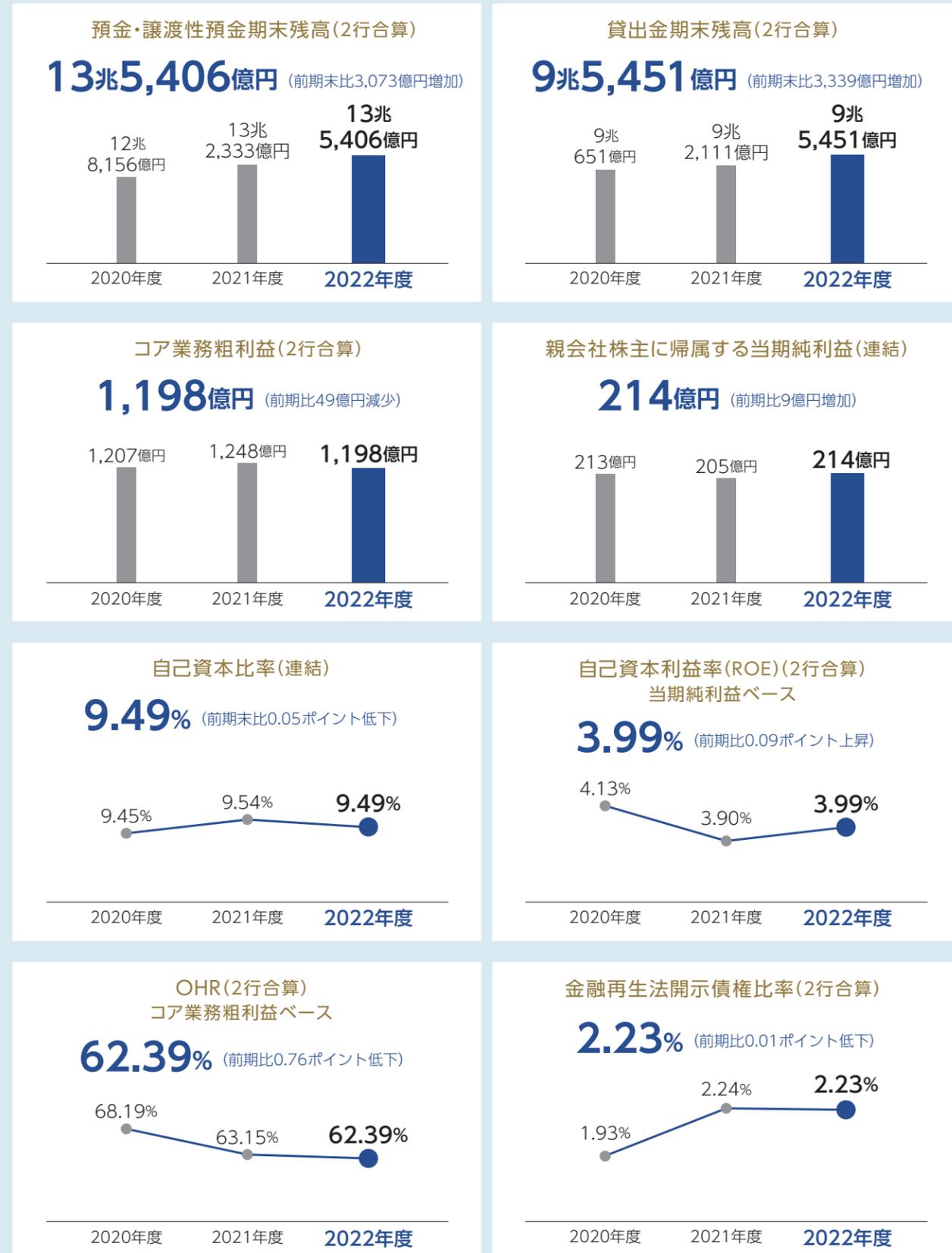
ほくほくフィナンシャルグループは、当コンソーシアムにおいて、ファンド・ファイナンスワーキンググループ長を務め、企業の成長ステージに応じたファンドやファイナンスのスキームを検討していくことに加え、事務局の一員として、当コンソーシアム間の連携を進めていきます。

この北海道における先進的な取組みのノウハウを蓄積し、当社グループが持つ広域店舗網を活用していくことで、北海道だけでなく、北陸3県のGXの推進に貢献していきます。

Team Sapporo-Hokkaido概要

Team Sapporo-Hokkaidoは、今後10年間で150兆円超ともいわれるGXの官民投資、それに呼応した世界中からの投資を北海道・札幌に呼び込むため北海道・札幌市が共同代表として設立されました。各省庁、メガバンク、地方銀行に加え、道内経済界等21の団体が一体となって取組みを進めていきます。具体的には、GX金融情報等の集約・共有、再生可能エネルギーの供給促進、事業の成長度に応じたファンドやファイナンス等の整備、環境投資を加速させる規制緩和等の検討、国内外で活躍する環境金融人材の育成、世界の投資を呼び込む効果的な情報発信・国際的な知見の獲得などに取組みます。





サステナブル関連投融資(累計)

2,893億円

※SDGs達成に向けて取組む取引先への投融資および医療、保健、教育、漁業、農業、創業、事業承継、レジリエンス、環境関連等への投融資

CO₂排出量 (Scope1,2)

45.2%

※2013年度比

ほくほく連携実現件数

1,901件

※2行の連携によるお客さまの課題解決に資する取組み(協調融資・ビジネスマッチング等)

積立型商品契約先数

127,586件

女性管理職比率

18.8%

資格取得者数

1,541人

※FP1級・CFP保有者、ITパスポート保有者の合計

格付情報		
格付会社	格付	取得企業
R&I (格付情報センター)	A	株式会社 ほくほくフィナンシャルグループ Hokuhoku Financial Group, Inc.
		北陸銀行
		北海道銀行
S&P	A-	北陸銀行

「格付」は、利害関係のない第三者機関である格付会社が企業の信用度や債務履行能力を簡潔な記号で表したものです。
 当社、北陸銀行および北海道銀行はR&Iより「A」の格付を取得しており、信用力は高いとの評価を得ています。また、北陸銀行はS&Pより「A-」の格付も取得しています。

外部評価

2023 健康経営優良法人
Health and productivity
ホワイト500